

## 『令和2年度黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略主要事業・関連事業のまとめ』

### 政策分野1 田園観光産業都市黒石市におけるしごとづくり

政策分野1では、令和2年度に33事業を実施し、A評価が23事業、B評価が10事業となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となった事業は、りんご小売店トップセールス事業及び都市と農村の交流事業の2事業でした。

農業分野では、農用地の利用集積による農業生産基盤の強化を図りながら、意欲と能力のある若手就農者や女性農業者の育成確保のほか、寿司専米「ムツニシキ」や「牡丹そば」をはじめとする農産物のブランド化、高値取引が期待されるシャインマスカットや希少品種の黄美香メロンの栽培促進をするとともに、県とも連携をしながら農産物の輸出に取り組みました。また、6次産業化・農商工連携を推進して地元の農産物を使用した加工品の開発・販売など、新たな食ビジネス創出への取り組みを支援しながら「食」をはじめとした新たな産業の基盤づくりに努めました。

具体的には、有機野菜を実践する産地形成を進めるため JAS 認定取得や土づくりに対する支援を行いました。また、農業次世代人材投資事業により、独立して農業を開始して間もない50歳未満の就農者に対し支援を行うとともにサポート体制を充実させ、就農意欲の喚起と定着化に取り組みました。農地中間管理事業による農地の累計集積面積は目標面積250haに対し、実績は292.5haとなり目標を達成しました。また、本市の優れた農作物の輸出に取り組む生産者に対し支援を行い、ベトナム向けでは初めてとなるりんごの輸出を実現することができました。

商工業の分野では、黒石ICロジスティクスクロッシングを中心とした企業誘致の推進に努めるとともに、創業・起業セミナーの開催、空き店舗を利用した出店者への補助金支出、中小企業者への資金繰り支援や設備投資支援による労働生産性の向上を支援しました。

具体的には、企業誘致・留置活動事業とあわせて「黒石ICロジスティクスクロッシング」を推進することで物流の拠点化と雇用創出に取り組みました。令和2年度には、2社が操業を開始しており、引き続き着実に成果に結び付くよう税制等の優遇措置の整備により企業が進出、拡大しやすい環境づくりを進めるとともに、誘致企業の早期操業に向けた調整に努めます。また、創業や起業を目指す方への支援として青森県と連携した創業・起業セミナーの開催、中心市街地の空き店舗に出店する事業者への家賃・店舗改修費の補助、企業経営の安定化を図るための事業資金の保証を市内金融機関と連携して行っているほか、先端設備等導入計画を策定した意欲ある中小企業者等に対して、税制支援や金融支援を行い設備投資による労働生産性の向上に対する取り組みを後押ししました。

就業支援の面では、採用や人材育成に意欲のある地元企業を支援し、地元就職を希望する学生やUIJ ターン希望者とのマッチングを図るための仕組みを構築し、「人財」の確保と地域産業力の強化に努めました。

具体的には、新型コロナウイルス感染症拡大により中止となったハローワーク主催の高校生企業説明会の代替としてオンライン上で市内の高校と企業をつなぐ説明会を開催しました。また、若者世代や移住希望者をターゲットに、黒石市企業ガイドを様々な種類の機器で閲覧できるマルチデバイス化を進め、企業のPRに努めました。

## 『令和2年度黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略主要事業・関連事業のまとめ』

### 政策分野2 田園観光産業都市黒石市への新たなひとの流れづくり

政策分野2では、令和2年度に27事業を実施し、A評価が22事業、B評価が5事業となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となった事業は、黒石よされ事業、黒石ねぶた祭事業、農業・農村体験事業「ワーホリ黒石」及びインバウンド観光推進事業（クルーズ船観光客誘客）の4事業でした。

観光の面では、新型コロナウイルス感染症の影響によりインバウンド観光客が途絶えましたが、外国人目線での情報発信など収束後を見据えた態勢づくりに努めました。また、地元・近隣市町村向けに市のまちあるきの魅力を発信しました。

具体的には、インバウンド観光推進事業において、オーストラリアに向けた情報発信や、観光関連事業者への受入環境支援に取り組みました。まち歩き観光推進事業では、中町こみせ通りの観光客の利便性を図るため、松の湯交流館屋外へWi-Fi環境を整備しました。また、市外への効果的情報発信のため、市のまちあるきPR動画の制作・配信のほか、広域での周遊観光に取り組み、民放テレビでの番組放送のほか、「古津軽」ブランドによる地域連携を図りました。

古い町並みを大切にし、来訪者が癒される空間の創出に努めるため、観光・まち歩きの拠点となる「松の湯交流館」を有する中町こみせ通りにおいて、回遊性及び景観の向上に取り組むとともに、国指定重要文化財の「高橋家住宅」や昔ながらの造り酒屋などを含む伝統的建造物の維持継続を図りました。

具体的には、歴史的景観形成事業において、こみせ等の歴史的な資源を生かした景観形成と安心して快適な回遊空間の整備のため、道路美装化工事を実施しました。また、中町伝統的建造物群保存地区の保存計画及び防災計画に基づき保存修理事業を実施し、町並みの保存及び災害に対応できるまちづくりを進めました。

移住促進の面では、首都圏等の方々を本市に還流させ、市外に向けて本市の魅力を情報発信するとともに、本市を訪れる方々と市民が交流できるような仕組みづくりをするために、国・県の取組と連携しました。

具体的には、移住情報発信事業において、新型コロナウイルス感染症の影響により首都圏でのセミナーは中止となりましたが、オンラインでの移住セミナーに参加しました。また、成果として移住に関する相談・情報提供の件数は30件を目標にしていたのですが、実績は1件であり新型コロナウイルス感染症の影響が大きく目標を達成できませんでしたので、周知方法を見直し目標達成に向けて取り組みます。

## 『令和2年度黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略主要事業・関連事業のまとめ』

### 政策分野3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望づくり

政策分野3では、令和2年度に37事業を実施し、A評価が30事業、B評価が6事業、C評価が1事業となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となった事業は、未来を担うリーダー養成研修会事業の1事業でした。

子育て支援の面では、黒石市子ども・子育て支援事業計画に基づき子どもが心身ともに健やかに育ち、子どもを産み育てる市民が喜びを感じることができる生活環境の実現に向け、教育・保育の確保、妊産婦・乳幼児・児童の健康確保、要保護児童への対応を基本目標とした多面的な子育て支援対策を総合的に推進しました。

具体的には、子ども医療費給付事業において、令和3年度からの中学校修了前児童の医療費無償化に取り組んだほか、子育てサポート事業では、育児用品を購入する際に利用できる「子育て応援利用券」の交付による負担軽減により、児童の保健及び出生育児環境の向上を図りました。相談・指導・支援、訪問事業では、妊娠・出産への不安や子育てに悩む母親とその家族の様々な相談に応じ、安心して妊娠・出産・子育てができるよう妊娠期からの継続した支援を強化するとともに、相談しやすい体制の構築に努めました。妊娠期からの継続した支援を実施した人の割合は目標値の100%に対して実績値は95%であり目標を達成できなかったことから、連絡が取れない妊婦に対する支援方法を検討します。

学校教育の面では、市立小・中学校の適正配置を実施し、小学校4校、中学校2校の体制で、将来の本市を担う人材の育成に向け、「個を生かし生きる力と夢をはぐくむ学校教育」のスローガンのもと、それを支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視した、特色ある教育活動を推進しました。また、適正配置と併せて小学校の完全給食も実施し、教育環境を充実させることができました。

算数・数学「UPる」先生事業において、市内各小・中学校に9人の算数・数学の指導員を配置し、チームティーチングや個別指導により児童生徒一人一人に対してきめ細かな指導を行うなど教育環境の充実を図りました。また、やる気「UPる」塾事業において、中学生を対象に「UPる」先生や弘前大学の学生が勉強の仕方を生徒に伝え、疑問点を解決する手助けをすることを通して、学習習慣や学力の定着につながりました。

社会教育の面では、生涯にわたり健康で明るく活みなぎる地域社会の実現に向け、学校教育と連携を図るとともに、市民同士のコミュニケーションを深め、誇りを持ち、家庭や地域での学びを活かした、人と人とのつながりと発信していける人づくりを大切にする社会教育の推進に努めました。

具体的には、子ども宿泊体験学習会を4地区の公民館・地区センターにおいて実施し、集団生活の中から協調性、自主自立性及び社会性を養い、地域で子どもを育む機運を高めることができました。また、銀河宇宙探検隊では、市内の小中学生27人が参加し、自然環境体験学習（天文教室）を開催することで自然に対する興味や関心を高め、自らの将来に夢や希望を持つ想像力豊かな心の育成を図りました。

## 政策分野4 健康都市宣言に基づく健康づくりと「黒石力」(=コミュニティカ)を活かした地域づくり

政策分野4では、令和2年度に26事業を実施し、A評価が11事業、B評価が14事業、C評価が1事業となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となった事業は、市民運動会事業及び各種スポーツ教室の2事業でした。

健康づくりの面では、市民がいきいきと暮らすために、各健(検)診の受診率向上など、地域ぐるみで健康づくりに取り組み、疾病予防と健康増進を目指した施策を展開しました。

具体的には、保健協力員の協力を得ながら地域ぐるみで健康づくりに取り組み、疾病予防と健康増進を目指すため、各健(検)診事業や保健指導、健康相談等を実施したほか、黒石市健康マイレージ事業を実施し、がん検診受診率の向上に取り組みました。受診率については、目標値を上回った項目があったものの、新型コロナウイルス感染症対策のため人数制限を行ったことなどにより目標値を達成できていない項目もあるため、引き続き感染症対策を実施するとともに受診率向上に取り組みます。

スポーツの面では、人口減少社会においてスポーツ人口が減少する傾向にはありますが、積極的にスポーツを取り入れ、喜びと感動に満ちたスポーツの振興に努めました。

具体的には、レクリエーションスポーツ実技講習会において、中弘南黒平地区スポーツ推進委員に対し、キンボール及びカーリングの講習会を実施し、レクリエーションスポーツの普及・推進に取り組みました。また、学校施設開放事業においては、市民の体育活動普及振興のため市内4小学校及び1中学校の学校施設を開放し、スポーツに対する理解を深め、心身の健全な発達を図りました。学校施設開放事業の延べ利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により22,865人で、目標値の35,000人に届きませんでした。引き続き学校施設を有効利用しスポーツの推進を図ります。

協働体制の確立については、市・消防署・各地区協議会・市民・市外在住の本市出身者等が、それぞれの役割分担を明確にし、ともに協力し合いながら、これまで培われてきた地域コミュニティを維持し、地域の問題を地域で考え、行動し、問題を解決できるような住民主体のまちづくりを支援しました。

具体的には、地域力向上事業において、地域の問題を住民自らが解決することができるよう課題・解決策を話し合う場を持つことで、今まで以上に黒石力(コミュニティカ)向上が図られました。また、自主防災組織の設立と支援に関する事業において、災害に強いまちづくりと組織率100%を目指し、自主防災組織の設立及び活動に対し補助金を交付することで支援しました。成果として、自主防災組織の活動カバー率は目標値100パーセントのところ、実績は96.7パーセントであり目標を達成できませんでしたが、未設立地区に対し積極的な働きかけを行っていきます。循環型社会の確立のため、黒石市ごみ減量化事業及び生ごみ処理コミュニティビジネスモデル事業において、地区協議会が実施する生ごみ処理コミュニティビジネスモデル事業に支援を行い、持続可能な自主自立の地域づくりを進めてきました。